

BSTJ

Business Support Team Journal
Vol.030

TAKE FREE

北海道の林業を元気にしてみたい思いで、
洋酒樽づくりにイノベーションを



北海道の洋酒は北海道の樽で醸す
職人仕事に頼らない洋酒樽を生産

ミチタル株式会社/水嶋さん&小島さんの





ミチタル

最新のIT技術を用いて洋酒樽づくりをDX。 北海道の森林や林業、木材の価値を高めたい！

地球温暖化の抑制や防災機能、木育など、森林が持つさまざまな役割と魅力に注目が集まる一方で、日本の林業は「お金とひとが集まりにくい」というジレンマを抱えています。

それぞれの立場で林業に関心を寄せていた水嶋直滉さんと、北海道大学農学部に通う小島颯太さんは、野外ロックフェスで出会い、意気投合。「北海道の森林、林業、木材の価値を高めたい」と、共同で「ミチタル株式会社」を設立。北海道産の木材を使った洋酒樽を製造、販売を行う会社です。

ミチタルの工房は、積丹半島の北東側に位置する古平町にあります。日本海に面した漁業の町ですが、総面積の9割は森林。水嶋さんは現在、同町地域おこし協力隊の林業推進員としても活動しています。

近年、北海道ではワイナリーや蒸留所の設立が増加。ワインやウイスキーの熟成に欠かせない木製樽ですが、需要は高まっているものの、現在流通している多くが海外製です。「すべてを北海道で完結させたい」と、洋酒樽に着目。また、「道内外、世界へと、ミチタルの樽を通して森を感じてもらいたい」(水嶋さん)という思いもあります。

中央が膨らんだ円柱状の洋酒樽は、独特な形に切り出した板を組み合わせ、金属製のタガで固定。内側を焼いて香り付けして完成させます。どの工程を見ても、技術と経験が必要な職人仕事。「職人ではないけれど樽を作りたい。どうやったら作れるのだろう」と考えた結果、「樽を作る『機械』を作る方法を選びました」(小島さん)。

小島さんの同級生の堅田一太さん(同社取締役・最高技術責任者)をはじめ、北大生も研究開発に参加。板を精密に切るための型枠を3Dプリンターで自作したり、赤外線ヒーターで加熱する自動樽焼き機を開発したりと、「あったらいいな」を内製化。ホームセンターの部材とIT技術を掛け合わせ、樽づくりに変革をもたらしたのです。

ミチタルの目標は、最小限の森林資源で最大限の利益を生むこと。そのため、樽には使われない樹種も活用し、未経験者でも製造できる仕組みの構築など、原材料費と人件費を抑えながら、質の高い樽づくりに挑戦しています。まだ始まったばかりの事業ですが、ミチタルの想いと将来性に共感する企業からの受注が増えています。

ミチタル株式会社

代 表 水嶋 直滉 (みずしま なおあき)

取 締 役
(共同創業者) 小島 颯太 (こじま そうた)

場 所 ①〒046-0103
北海道古平郡古平町
本町19(工場)

②〒046-0121
北海道古平郡古平町
浜町1100-208(工房)

T E L 090-8274-9963



創業の動機や経緯について

林業への思いと課題が縁になり、付加価値を高める洋酒樽に注目

以前の職場で森林管理や環境教育、観光に携わった経験から、「林業に恩返しをしたい」という思いを温めていた水嶋さん。コロナ禍に高校生活を過ごしたことで登山に目覚め、北海道大学農学部で生物環境工学を学びながら、同大「森林研究会」で林業の現場を体感した小島さん。「林業」が縁となり、共通する課題がふたりを結び付けました。

「林業の『川上』といわれる木を切る人、木を運ぶ人、製材する人、そういう方々にお金を回すことができる力強いビジネスを、『川下』の我々が作っていきたい。今一番高い付荷価値を付けられるものを考え、洋酒樽に注目しました」と、小島さんは説明します。

熱い思いと革新性が求心力に 仲間や協力者が増え、事業化へ

まずは「北海道洋酒樽プロジェクト」を立ち上げ、試行錯誤を重ねました。本来だと何年もかかる職人仕事の世界。北大生を中心にさまざまなメンバーが集まってアイデアと技術を持ち寄り、また、ビジネスコンテストで優勝した縁で日本航空からノウハウを得るなどして、2024年12月末にようやく「漏れない樽」が完成。翌年4月、縁起が良い季節を選び法人化し、本格的に樽製造を始動しました。「林業を元気にするために何ができるのか」を常に考え、事業を進めています。

創業年表

2023年
8月

水嶋さんと小島さんが出会う

北海道洋酒樽プロジェクトを立ち上げる。水嶋さんが地域おこし協力隊員として古平町に赴任

2024年
12月

小島さんが日本航空×北海道大学「北の大地で煌めけビジネスコンテスト」グランプリ受賞、漏れない樽が完成

小島さんが
「学生ビジネスプランコンテスト」
で優秀賞受賞

2025年
4月

ミチタル株式会社を登記

2024年
8月

2025年
3月



創業時の苦労・悩み・解決方法について

ビジネス経験や実績がない中、人との出会いが打開策に

「苦労だらけでした」と、水嶋さんは振り返ります。「ビジネスをやってきた背景はなく、仕事も転々としてきた中で起業したので、思い出せないくらいたくさんの壁にぶち当たりました」。

樽を作るのに欠かせない木材の調達や必要な設備も、創業資金が十分ではなかったので1つずつ揃えていきました。「ただ、その度にいろいろな人が支えてくださったおかげで、ここまで来られたと思っています」。

さまざまな助言や支援が融資に繋がり、創業を後押し

北海道信用保証協会との出会いも、その1つだったと水嶋さんは話します。「創業融資を考えた時、最初に相談したのが北海道信用保証協会でした。事業計画への助言をいただき、その後の銀行、また投資家の方々に説明する際、しっかり説明できるものになりました」。

小島さんも「我々は実績もないですし、今はまだ自分たちの樽をプラスアップしている段階。それを実現するにはお金が必要なので、北海道信用保証協会に支援していただいてスムーズに動きましたし、創業融資が決まって非常にありがとうございます」と話します。

経営において心がけている事

経営の判断基準は、森と林業と人森林循環と経済性の両立がテーマ

ミチタルの経営の軸になっているのは、『林業』と『北海道の森』。樽で得た利益を森に還元する『森林循環と経済性の両立』をテーマに掲げ、取り組んでいます。「我々の判断基準には、常に森と林業、そしてその現場で働く人々への想いがあります。単に樽を製造・販売するだけでなく、より高い視点から経営的な判断を行っています」と、小島さん。

また水嶋さんはこう加えます。「ものすごく長いスパンで見た時、僕たちの子ども、孫の代が『ミチタルっていいことしている』って思われるよう、ミチタルを信頼して発注してくださるお酒造りの方々を伴走していくらいいなと思っています」。

Start UP! Advice
これから創業を考えている方へのアドバイス

仲間と一緒に

一人でできることには限界があります。孤独に思われがちな経営者ですが、その孤独を共有できる仲間は必ず近くにいます。仲間と一緒に起業して、それぞれの役割を果たすことで、どんどん大きな輪になっていくと思います。



●樽づくりの原点。こだわりの北海道産の木材が並ぶ。



●3Dプリンターで自作した型枠。



●誰でも板を精密に断裁可能な仕組みを作り上げた。



●試行錯誤の末、自作の赤外線ヒーターによる火入れ技術も確立。



水嶋さん、小島さんの創業ストーリーの詳細はYouTube [オーエンチャンネル](#)をご覧ください。



今後の展望

制作した洋酒樽のメンテナンスも計画中！

ミチタル株式会社は、洋酒樽の製造にとどまらず、販売した樽のメンテナンスサービスも開始予定。さらに、北海道古平郡古平町本町19に新たな工場も準備中。ミチタル独自の技と知恵で生み出された技術を用い、北海道産木材を活かしたものづくりをさらに進化させます。樽の製造からメンテナンスまで。北海道から洋酒樽文化を届け、北海道の森と林業に関わる人々と共にあり続けるミチタル株式会社の今後の展開に、ぜひご期待ください。



PICK UP!

ミチタル株式会社公式サイトでは、製品情報や最新ニュースなどを掲載しております。

また、「今週のMICHITALニュース」と題し、ミチタルの活動報告やお酒・森・樽・林業・テクノロジーなど
様々な豆知識もご紹介しています。北海道発の挑戦を、ぜひ覗いてみてください。

ミチタル
MICHITAL
一心が満ちる。未知へ挑む。北海道で。-

はじめまして、MICHITALです【第1号】
北海道で価値を実現させる。北海道洋酒樽プロジェクト。作りたいのは新しい「樽」であり「産業」であり「文化」。我々の挑戦の過...
2024.12.15

人気の記事

初！樽詰め式の現場レポート【特別号】
僕たちが制作した樽、ミチタルに初めて蒸留...
2024.12.21

JALx北大のビジコンでグランプリ！【第2号】
日本航空と北大が共催したビジネスコンペ...
2024.12.27

Hult Prize Winner !!!【第5号】
MICHITALの見習いエンジニアことテルヤで...
2025.04.11

すべて見る >

ミチタル
＼公式ホームページ /



www.michital.com

北海道信用保証協会information

北海道信用保証協会について Q&A

Q 信用保証協会ってどんな組織？

A 信用保証協会は、中小企業者のみなさまが事業資金を金融機関から借入する際に、その借入債務を保証することによって資金調達の円滑化を図り、中小企業者の健全な発展を促進することを目的として設立された公的な保証機関です。

Q どんなことを行っているの？

A 金融機関からの借入債務を保証する他に、中小企業者のみなさまが抱える経営上の課題や悩みに関する相談、その相談を解決するための専門家（中小企業診断士など）の派遣等による経営支援を行っています。

創業支援・経営支援メニューについて

ミチタル株式会社が活用した創業支援・経営支援メニューについて紹介します。

経営相談

創業に関する一般的な相談から、資金調達に関する相談、事業を開始した後の経営相談に至るまで、あらゆる相談を承っております。何度ご相談いただいても無料ですので、まずは下記のフリーダイヤルよりお気軽にご相談ください。



フリーダイヤル

ツナグゴシエン
0120-279-540

フリーダイヤルがご利用いただけない場合は、本店・業務統括部企業支援課011-241-5605をご利用ください。

創業者向け保証制度

保証限度額

3,500万円

担保不要

保証期間
10年以内

信用保証料率

創業関連保証 0.86%

スタートアップ創出促進保証制度 1.06%

スタートアップ創出促進保証制度は 保証人不要

詳細については下記フリーダイヤルからお問合せください



地域おこし協力隊とは？

地域おこし協力隊は、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取り組みです。隊員は各自治体の委嘱を受け、任期はおおむね1年から3年です。

令和6年度は全国で7,910名の隊員が活動していますが、北海道では全国最多となる1,307名が活動しています（特別交付税ベース）。

また、任期終了後も隊員の約77%が引き続き道内に定住し、自ら起業して地域で仕事を創り出すなど、新しい感性や刺激を地域に持ち込んで、地域の活性化に貢献しています。

ほっかいどう
地域おこし協力隊

ポータルサイトは
コチラから→



ほっかいどう
地域おこし協力隊

START-UP! BUSINESS SUPPORT TEAM JOURNAL VOL.030

発行人 北海道信用保証協会 業務統括部 経営支援室 企業支援課
札幌市中央区大通西14丁目1 TEL.011-241-5605
<https://www.cgc-hokkaido.or.jp/>



2026.01